

# 気候変動枠組条約第15回締約国会議(COP15)について

平成21年12月



# COP15/CMP5 全体スケジュール

2009.11.30時点

	月	火	水	木	金	土	日
	<u>12/7</u>	<u>12/8</u>	<u>12/9</u>	<u>12/10</u>	<u>12/11</u>	<u>12/12</u>	<u>12/13</u>
午前	COP・CMP 開会	SB開会	【オバマ米大統領参加】 COP・CMP全体会合 非公式会合 【18:15～コベネフィット サイドイベント】	非公式会合	非公式会合	COP・CMP 全体会合	会議なし
午後	AWG 開会			非公式会合 【18:15～政府サ イドイベント】	非公式会合		
	<u>12/14</u>	<u>12/15</u>	<u>12/16</u>	<u>12/17</u>	<u>12/18</u>		
午前	非公式 会合	非公式 会合	COP・CMP 全体会合 (AWG報告) 閣僚級セッ ション	COP・CMP 閣僚級セッション  (夜)デンマーク 女王主催晩餐会	COP・CMP 首脳級 セッション ・閉会		
午後	非公式 会合	AWG閉 会	COP・CMP 閣僚級セッ ション			非公式 会合	

(参考)議長国デンマークは、最終日(12/18)に首脳級セッションを行いたいとし、各国首脳(我が国は鳩山総理)に招待状を送付している。

# COP15における主な論点

## COPでは将来の法的文書採択につながる政治的合意を目指していく

### ①長期目標を含む共有のビジョン

- ・「2050年までに世界全体の温室効果ガス排出量を少なくとも半減」の長期目標に合意できるか

### ②緩和(温室効果ガスの削減)

- ・先進国の削減目標(削減レベル、基準年)
- ・中、印等の主要途上国の行動(拘束力、目標の形式)
- ・全ての国の長期(2050年)の排出削減の道筋、
- ・目標・行動のMRV(測定・報告・検証が可能な仕組み)
- ・新たなクレジットメカニズムの創設

### ③途上国への資金援助

- ・資金供与の額、資金メカニズム

### ④気候変動への適応、技術開発・移転等

- ・気候変動に脆弱な途上国への適応支援
- ・環境技術に対する知的所有権の扱い

### ⑤法的拘束力のある文書を決定する最終期限

# 各国の目標①：先進国の中長期目標

	2020年		2050年		中長期目標の決定状況
	基準年	削減率(%)	基準年	削減率(%)	
日本	1990	25%	—	80%	中期目標：総理が発表(2009年9月) 長期目標：日米共同メッセージ(2009年11月)
EU(27)	1990	20% (※1)	—	— (※2)	欧州議会でEU全体の合意を明記 (2008年12月)
英	1990	34%以上 (※3)	1990	80%以上	英国気候変動法(2008年11月)に明記
独	1990	40%	—	—	閣議決定(2007年8月)に明記(※4)
仏	1990	20%	1990	75%	環境グルネル法(2009年2月)に明記
米	2005	17%	2005	83%	ホワイトハウスが発表(2009年11月25日)(※5)
加	2006	20%	2006	60~70%	政府が宣言(2007年4月)
豪	2000	5 (※6)	2000	60%	白書(閣議決定、2008年12月)に明記
ノルウェー	1990	40% (※7)	—	— (※8)	白書(閣議決定、2007年6月)に明記
ロシア	1990	22~25%	—	—	EU・ロシア定期首脳会議で大統領が表明 (2009年11月)

※1 他の先進国が同等の排出削減にコミットし、経済面でより成長した途上国が責任と能力に応じて適切な貢献をする場合には30%。

20%削減に向けて必要な削減努力の約1/3は柔軟性メカニズムによって実施。残りの2/3はEU内で削減。

※2 EU環境相理事会での合意は先進国全体で1990年比60~80%削減。

※3 中期目標については「2018年~2022年までに少なくとも34%削減」と修正(2009年4月22日に財務大臣が財政予算と共に発表)。

※4 中期目標を達成するための「エネルギー・気候統合プログラム」の一部は2008年7月までに国会で承認。

※5 2025年に30%、2030年に42%削減も併せて発表。

※6 2050年までに大気中の温室効果ガス濃度をCO2換算で450ppm以下に安定化する野心的目標に世界が合意する場合には最大25%(政府発表、2009年5月)。

※7 2012年までに10%削減。40%削減の数値は2009年10月8日にAWGバンコク会合にて発表。

※8 2050年までにカーボンニュートラルを達成。

(平成21年12月7日時点版)

## 各国の目標②: 途上国の中期目標

国名	目標	発表時期
インドネシア	2020年までにBAU比で26% / 41%削減	2009 / 9
ブラジル	2020年までにBAU比で36% ~ 39%削減	2009 / 11
韓国	2020年までにBAU比で30%削減 (2005年比-4%に相当)	2009 / 11
中国	2020年のGDP当たりCO <sub>2</sub> 排出量を2005年比 で40~45%削減	2009 / 11
インド	2020年のGDP当たりCO <sub>2</sub> 排出量を2005年比 で20~25%削減	2009 / 12 (予測結果の発表)
シンガポール	2020年までにBAU比で16%削減	2009 / 12
南アフリカ	BAU比で2020年までに34%削減、2025年ま でに42%削減	2009 / 12

※BAU (business as usual) …対策を講じなかった場合

# COP15閣僚準備会合の概要(11/16・17 デンマーク・コペンハーゲン)

## COP15での合意のあり方

議長国のデンマークから、COP15において、将来の法的文書採択につながる政治的合意を目指す方針が示された。

## 政治的合意についての主な論点

- ・先進国の削減目標
- ・MRV(測定、報告、検証が可能な仕組み)に基づく途上国の削減行動
- ・気候変動に対処するための途上国への資金援助
- ・法的拘束力のある文書を決定する最終期限

## 我が国の主張

- ・鳩山総理が発表した、温室効果ガスを90年比25%削減するとの意欲的な目標や、「鳩山イニシアティブ」に基づく途上国支援等について改めて表明。議長国の考えを支持。
- ・COP15において、政治的合意文書の採択という結論となったとしても、期限を定めて最終的に法的文書に合意するよう作業を加速化することが必要。

その他、主要国の閣僚等と二国間会談を実施し、日本の考え方を反映。

(実施国:米国、中国、英国、スウェーデン(EU)、デンマーク、デボアUNFCCC事務局長